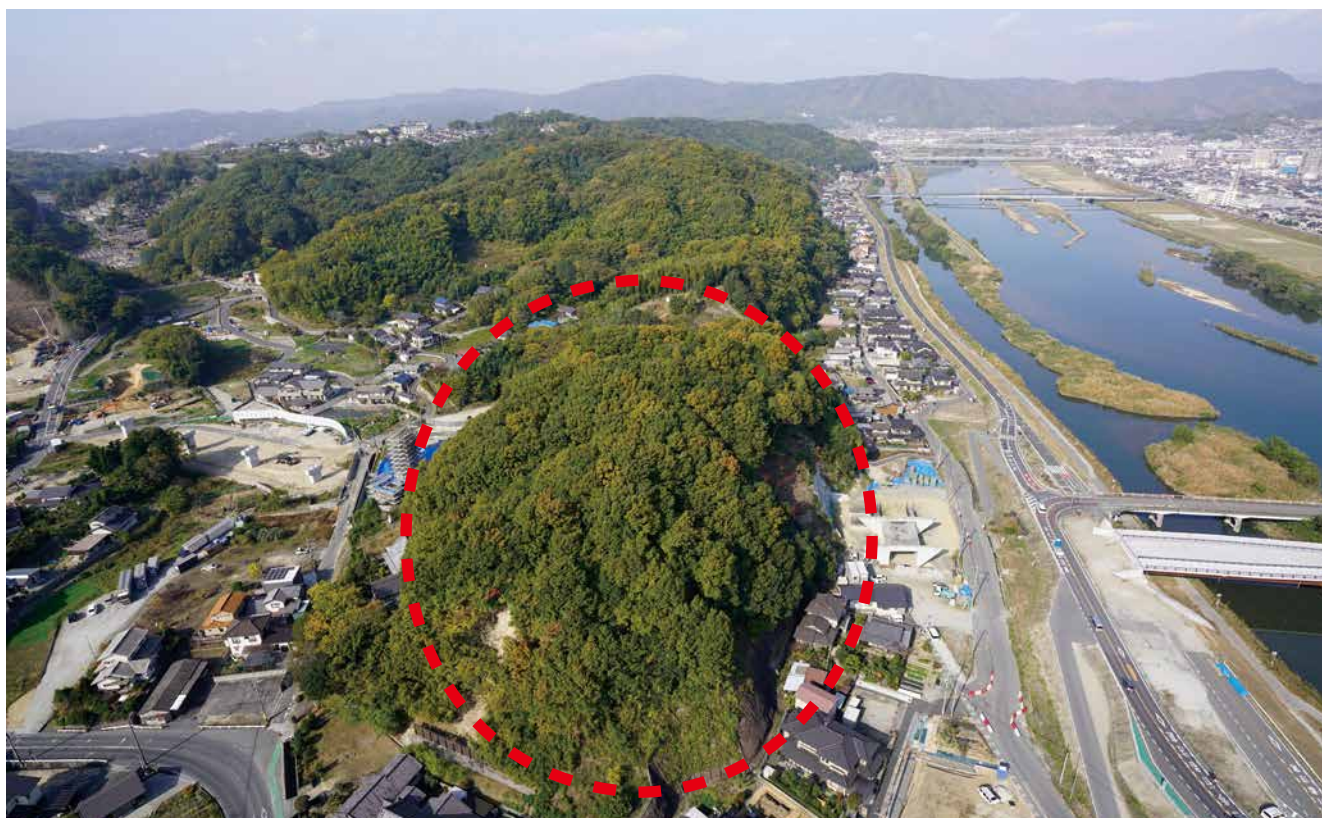


ひろしまの遺跡

第127号

中山城跡の調査

— 中山城跡 (福山市) —



中山城跡 (南から)



中山城跡西側調査区 (南西から)

中山城跡は芦田川^{あしたがわ}の西岸に位置する丘陵の南端の頂部に立地しています。北東方向の河床には草戸千軒町^{かしやう せんげんちやう}遺跡があります。

主郭^{しゆ かく}の標高は約46m、規模が22m×10mの南北側が長い長方形で、四隅部の延長線上に小さい郭が4か所配置されています。

調査は福山沼隈線^{ふくま ぐま}道路改良事業に伴うもので、城跡のある山を東西に貫くトンネル建設工事部分の上部に東西2か所の溝状の落ち込み部分があり、塹壕^{なで ぼり}と推定されることから調査を行いました。

発掘調査速報

中山城跡（福山市草戸町）

調査期間 令和3年11月29日～令和4年2月4日

中山城跡の調査は、東西2か所の溝が対象で全調査面積の約3分の1を実施しました。残りの調査は来年度以降となります。

調査の結果、東西の調査区ともに、溝状の落ち込みを確認しました。東側調査区の溝は、幅8m以上で深さは1.5m、西側の溝は、幅が3.5mで深さが約1mでした。いずれの溝も上端と底までの傾斜が緩いことと底の幅が広く緩やかであることから、竖堀の可能性は低いと考えられます。

遺物は、東側調査区から常滑焼と備前焼の破片が出土しています。その内、常滑焼の甕は、草戸千軒町遺跡での時期編年でⅡ期からⅢ期に相当し、年代は14世紀後半から15世紀代になります。このことは、中山城跡が15世紀代後半には存在していたことを示します。草戸千軒町遺跡との関連や城主などの検討は、次回の調査後となります。また、『備陽史探訪』165号では、中山城跡は新たに確認された草戸山城跡の立地する丘陵の南端にあることから、これらは一連の城跡である可能性が指摘されています。

※田口義之『草戸山城について』『備陽史探訪』第165号



西側調査区近景（南西から）



西側調査区溝状遺構（北西から）



東側調査区調査前（北西から）



東側調査区溝状遺構（南西から）



東側調査区（東から）



作業風景



常滑焼の甕（口縁部）



作業風景

いせき余話

遺跡の発掘調査は、表土から遺構の確認面までの掘り下げや遺構の埋土の掘り下げにより多量の土が出ます。調査地が平地であれば排土場に一輪車などで運んでいます。

調査の対象が山城跡や古墳など丘陵の頂部に立地し、土を排土場に捨てることができないことがあります。このような時、排土用の塩ビ管（内径60～80cm）を使用して麓まで土を排出することがあります。前頁で紹介した中山城跡も塩ビ管を利用して調査を実施しました。

まず、塩ビ管に排土用の穴を開けて、ここに土を入れると土が下まで流れて行きます。排土場に土が溜まると重機とダンプで排土の搬出を行いました。この方法で注意をしなければいけないことが2点あります。土と一緒に手箕を捨てない事と土が詰まらないよう点検を行う事です。手箕を落とすと排土場まで取りに行かなければならないので大変です。また、土が詰まると除去するのに時間がかかり、作業が止まってしまう。詰まりを管理するために、塩ビ管の設置と同時に階段も併設しています。この階段は頂部の郭から続いており、調査区まで行くのに利用していました。

調査が終わって排土場から塩ビ管の中を覗くと土が底に残っており驚きました。あれだけ注意していたのに……中山城跡の調査は斜面地の調査であったため排土用の穴を上・中・下の3か所にして、それぞれ作業用のテラスも設置しました。

萩原城跡^{はぎわら}の調査では排土用の塩ビ管を2か所、茶臼古墳^{ちやうす}の調査では古墳近くまで階段を設置して調査を行いました。



排土作業のようす



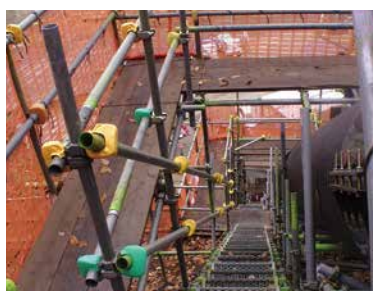
排土場



排土の搬出作業



塩ビ管の中



階段と踊り場



萩原城跡（三次市）



茶臼古墳（三次市）



作業用のテラス

知れざるいろいろの遺跡探訪 2021

第1回 海田町の史跡散策 (10月23日・土)

海田町では、海田市駅を出発して瀬野川沿いを歩きました。瀬野川にかかる九十九橋は山口県光市の海軍工廠（空襲により壊滅）の廃材を利用して架けられたもので、空襲の際の弾痕が残っています。瀬野川沿いを景色や神社を見学しながら歩き、海田町ふるさと館へ。ここでは畝観音免古墳群があり、横穴式石室を見学することができます。ここからは西国街道を歩いて海田市駅へ。海田市駅周辺にはその名の通り市が開かれており、現在も江戸時代の姿を残す建物がみられます。旧千葉家住宅は本陣に準ずる施設として利用された商家で、安永三年（1774）に建築された座敷棟は県重要文化財に、庭園は県指定名勝に指定されています。古墳から江戸時代、明治～昭和のかけての史跡を散策し、盛りだくさんの一日となりました。



畝観音免第1号古墳石室



旧千葉家住宅

第2回 草津・井口面影探し (11月20日・土)

第2回は広島市西区の草津・井口地区を散策しました。この地域は大規模な埋立てによって大きく地形が変わっていますが、江戸時代の面影を各地にまだ残しています。江戸時代に描かれた絵図を手に、まずは朝から住宅地に残る草津城跡へ。今はマンションや道路に囲まれた草津城は、かつては海に面した水軍の城でした。きつい階段を登ると、眼下には瀬戸内海が広がり、厳島がよく見えます。

その後も、今は住宅地となった西国街道を絵図を見ながら歩き、今も変わらぬ位置にある寺や、かつての船着き場などを見学しました。普段通っている道沿いに江戸時代の面影が残っていることに、参加者は驚いていました。



草津城跡へ



八幡橋

今年度の遺跡探訪は、5月・6月が新型コロナウイルス感染症拡大により中止となり、秋に開催しました。これまでは昼食を挟んで一日かけて散策を行っていましたが、今年度はコロナ対策として午前中のみの開催とし、参加人数も制限して行いました。

延期

令和3年度ひろしまの遺跡を語る ひろしま考古学講座X

令和4年1月29日に開催を予定していた令和3年度「ひろしまの遺跡を語る」及び1月以降全6回で開催予定だった考古学講座第2回以降は、どちらも年度内の開催を目指しましたが、新型コロナウイルス感染症の動向を鑑み、来年度に延期となりました。今後の日程については、改めてお知らせします。

なお、「ひろしまの遺跡を語る」の発掘調査報告については、動画を当室のホームページで視聴できるよう準備中です。



考古学講座X第1回のように



録音中



撮影中（亀居城関連遺跡）



撮影中（城ノ本遺跡）

開催予定の考古学講座

回	期 日	演 題	講 師
1	令和4年 1月8日	追風に漕ぎだす弥生の船 ー福山市・御領遺跡の弥生土器の船絵画ー	伊藤 実 (当事業団埋蔵文化財調査室)
2	延期	弥生時代の広島県とその周辺地域における 石器の流通	乗松 真也 (愛媛県埋蔵文化財センター)
3	延期	下岡田遺跡と安芸駅館の謎	渡邊 昭人 (当事業団埋蔵文化財調査室)
4	延期	装飾付大刀からみた古墳時代の広島県と 周辺地域	吉松 優希 (島根県埋蔵文化財調査センター)
5	延期	古代吉備における製鉄遺跡の研究	上梶 武 (岡山県教育庁文化財課)
6	延期	仕切石と土器床のある古墳	山田 繁樹 (当事業団埋蔵文化財調査室)



考古学 アラカルト 57

整理作業でみえてくる かめ い じょう 亀居城関連遺跡

現地での発掘調査が終わると、整理作業を行い、報告書を刊行します。整理作業とは、遺跡から出土した遺物の洗浄、割れて見つかった遺物の接合や復元、正確に計って記録する実測、写真撮影などを行うことです。遺構なども含め、調査についてすべてのことがらを網羅し、それぞれの事柄について、必要かつ的確に記録し、「発掘調査報告書」としてまとめていきます。

整理作業を進めていくと、現地ではわからなかったけれど、きちんと判明することや新たな発見があります。その一つが、亀居城関連遺跡（大竹市小方）で見つかった下の写真の石垣の性格についてです。亀居城関連遺跡は亀居城跡の東裾にあり、平成26（2014）年度の第1次調査から本年度の第4次調査まで、一般国道2号改築事業に伴って調査を実施しました。調査では町屋跡・街道跡などが見つかっています。

下の石垣は平成27（2015）年の第2次調査の際、すでに一部分が見つかっていました。その際、石垣の積み方が打ち込みはぎという江戸時代初め頃に多く見られる積み方であること、亀居城の石垣と同じ刻印がみられることから、亀居城築城時の石垣の可能性がありました。また、令和2年度の第3次調査で石垣の続きがみつかり、石垣の角が近世の城にみられる算木積みであることや、石垣が自然の岩盤の上に築かれており、築造した当時は波打ち際であったと思われる立地状況から、第2次調査時と同様に石垣が亀居城に付属する施設であると考えていました。しかし、整理作業を進める中で、亀居城ではなく西国街道や町屋の形成に伴うものであることが明らかとなりました。



第3次調査時にみつかった石垣（北西から）

※ひろしまの遺跡第115号表紙に掲載しているものと同じ石垣です。第2次調査では石垣の前面のみ調査し、裏込めは調査区外のため掘らずに埋め戻していました。

石垣の性格が判明した決め手は、裏込め^{うらごめ}から出土した遺物です。これらの遺物は、整理作業を進める中で、18世紀代のものであることがわかってきました。亀居城が築城されたのは17世紀の初めですから、かなりの時期差があります。18世紀代の絵図にも前ページの石垣と思われる箇所が西国街道や町屋とともに描かれています。

亀居城関連遺跡では、亀居城跡の東裾からほかにも多くの石垣を検出しています。裏込めから18世紀代の遺物が出土した石垣以外は、石垣に伴う遺物は出土しておらず、築造時期は明らかではありません。今後の整理作業の中で、これらの石垣が、亀居城に付属する施設であるのか、または、西国街道や町屋の形成に伴うものであるのかを明らかにしていきたいと思っています。

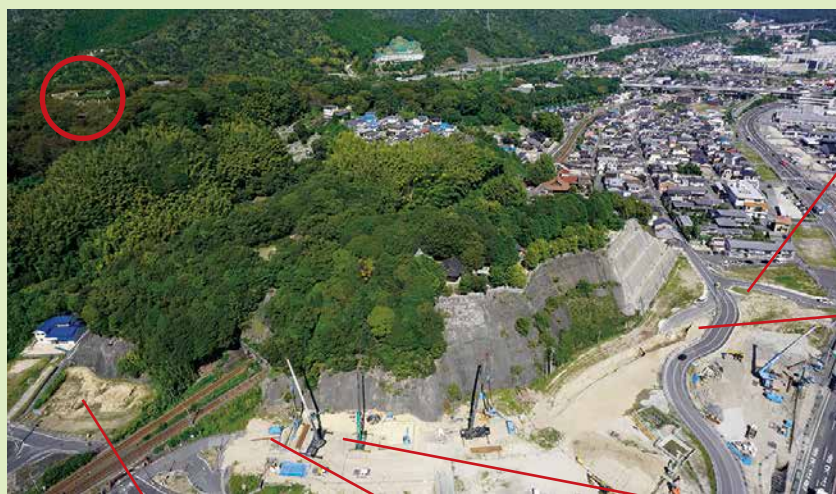
この度は、やむを得ず亀居城関連遺跡（工事が行われる遺跡の一部）を保存することができませんでしたが、どのような遺跡であったのかをきちんと整理して報告書に記録し、後世に伝えていくのが、私たちの役目と考えています。



石垣の裏込めから出土した18世紀代の遺物

亀居城とは

福島正則^{ふくしま まさのり}は、関ヶ原の戦い後、慶長^{けいちょう}6(1601)年に広島城に入城しますが、周防国・長門国^{すおう ながと}に移封された毛利氏に対する守りとして、安芸国西端の小方に築城したのが亀居城です。慶長13(1608)年の完成から3年後に廃城となるなど、謎の多い城です。



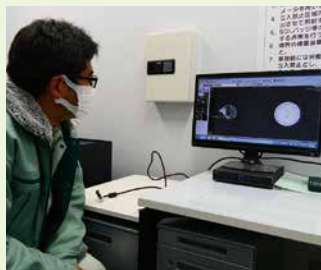
○が亀居城の本丸跡です。郭の一つである妙見丸^{みょうけん まる}の東裾に沿うように石垣を検出しました。右上の石垣は上述した18世紀代の遺物を伴う石垣です。

X線撮影で見えた!

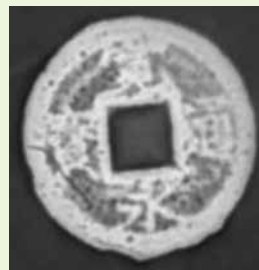
遺跡から出土した金属製品は、長い間に錆で覆われてしまい、模様が見えなかったり、錆びて資料同士がくっついてしまっているものがあります。そこで、X線撮影をして本来の様子を確認します。X線撮影によって肉眼では確認することが難しい情報を得ることができ、報告書作成に活かすことができるようになります。今回は亀居城関連遺跡第4次調査の資料を撮影しました。撮影は専門の業者に依頼し、調査員が撮影された画像を随時確認しながら作業を進めます。撮影結果が予想通りだったり、大ハズレだったり…。撮影のお楽しみです。



撮影業者と打合せ



画像をチェック



錆びている古銭→寛永通宝でした

もちろん自分達でも

X線撮影はできませんが、当室にも撮影室があります。報告書に掲載する遺物の写真を撮影しますが、もちろん今はすべてデジタルカメラを使っています。カメラとパソコンは連動しており、撮影台に遺物をセットし、モニターでピントを合わせたりゴミの除去や土器の角度調整などを行います。シャッターを押すとすぐに確認出来て便利なのですが、その分、土器の文様の写りに悩んでライトの位置を変えたり、拡大しすぎて注記の位置が気になったり…。案外撮影までは時間がかかります。

フィルムの使用時は、ポラロイドで確認してもピントが合うか不安で絞りを変えて撮影したり、写真のベタ焼きが届くまでは撮影機材はそのままにしていました。今では、撮り直しが無いだけ原稿に時間が取れます。



撮影台に土器をセット



モニターで写り具合を確認



刊行物のお知らせ

送料等については、調査室へお問い合わせください。

書名	概要	頒価(円)
第11集 令和2年度「ひろしまの遺跡を語る」 ひろしまの遺跡2020-報告と講演-	ひじやま 比治山大学教授の安間拓巳さんによる講演「近年の中世鉄生産研究をめぐって」と、令和2年度に当事業団が調査した遺跡についての発掘調査報告の全記録。	500 (送料別)

(公財)広島県教育事業団のロゴ決定!

(公財)広島県教育事業団のロゴが新設されました。腕を上にあげてガッツポーズする人を表しています。また、上は土器を、下は堅穴建物を模しています。

新しいロゴとともに、これから当事業団をどうぞよろしくお願いいたします。



(公財)広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室報 ひろしまの遺跡 第127号

発行日 令和4年3月25日
編集 (公財)広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室
〒733-0036 広島市西区観音新町4-8-9
TEL(082) 295-5751 FAX(082)291-3951
ホームページ <https://www.harc.or.jp/>
E-mail maibun@harc.or.jp
発行 (公財)広島県教育事業団
印刷 株式会社インバルスコーポレーション

